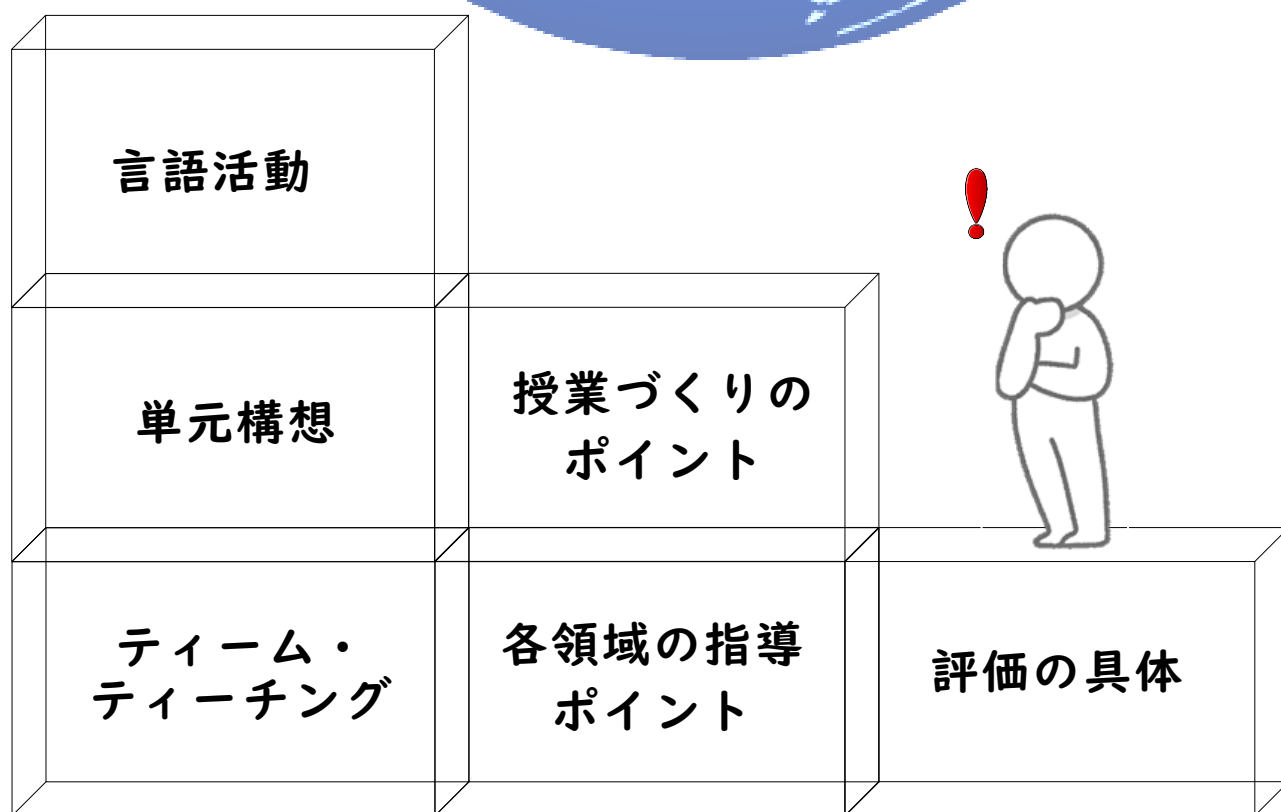




小 学 校 外 国 語 教 育 ガ イ ド ブ ッ ク

Ver1.1



目 次

1 理論編

- (1) 小学校外国語活動・外国語の概要と目標・・・・・・・・ 1
- (2) 長野県で目指す英語の授業の姿・・・・・・・・ 2
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり・・・ 3～4

2 授業編

- (1) 言語活動について・・・・・・・・ 5～7
- (2) 単元構想のポイント・・・・・・・・ 8
- (3) ティーム・ティーチングのポイント・・・・・・・・ 9～10
- (4) 領域別指導のポイント
 - ①「聞くこと」・・・・・・・・ 11～12
 - ②「読むこと」・・・・・・・・ 13
 - ③「話すこと[やり取り]」・・・・・・・・ 14
 - ④「話すこと[発表]」・・・・・・・・ 15
 - ⑤「書くこと」・・・・・・・・ 16
- (5) 小学校外国語教育の評価と具体例・・・・・・・・ 17～21
 - ①「聞くこと」・・・・・・・・ 22
 - ②「読むこと」・・・・・・・・ 23
 - ③「話すこと[やり取り]」・・・・・・・・ 24
 - ④「話すこと[発表]」・・・・・・・・ 25
 - ⑤「書くこと」・・・・・・・・ 26
- (6) 実践事例
 - ①「聞くこと」・・・・・・・・ 27～31
 - ②「読むこと」・・・・・・・・ 32～35
 - ③「話すこと[やり取り]」・・・・・・・・ 36～41
 - ④「書くこと」・・・・・・・・ 42～45

1 理論編

(1) 小学校外国語活動・外国語の概要と目標

小学校外国語教育の概要

3・4年 外国語活動

- ・授業時数 週 **1コマ**
(年間 35 時間)
- ・コミュニケーションを図る **素地** となる資質・能力を育成
- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」の目標の実現を目指した指導
- ・教材は文部科学省作成教材を使用

5・6年 外国語科

- ・授業時数 週 **2コマ**
(年間 70 時間)
- ・コミュニケーションを図る **基礎** となる資質・能力を育成
- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「**読むこと**」「**書くこと**」の目標の実現を目指した指導
- ・教科書を使用

小学校外国語活動・外国語科の目標

3・4年 外国語活動

5・6年 外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、

外国語による聞くこと、話すこと
の言語活動を通して

コミュニケーションを図る素地となる

外国語による聞くこと、読むこと、話
すこと、書くことの言語活動を通して

コミュニケーションを図る基礎となる

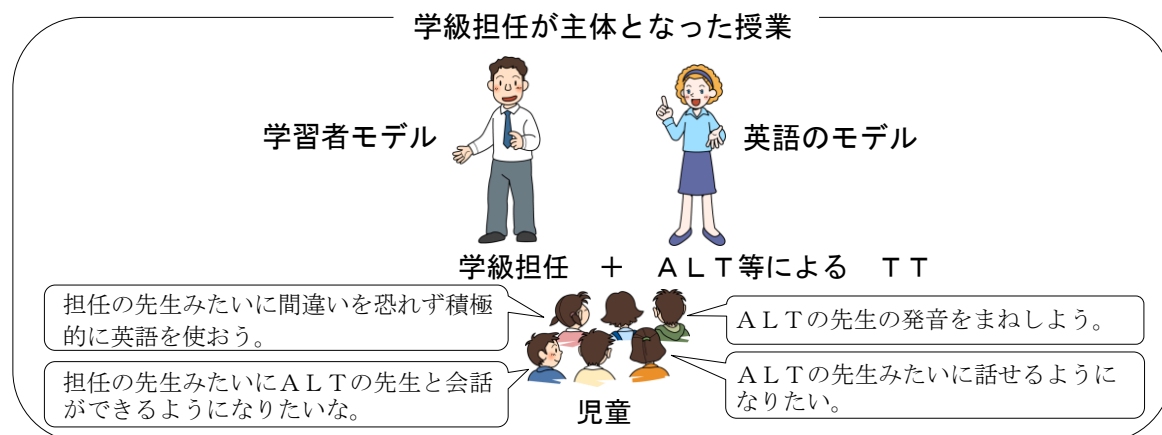
資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他社に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) 長野県で目指す英語の授業の姿

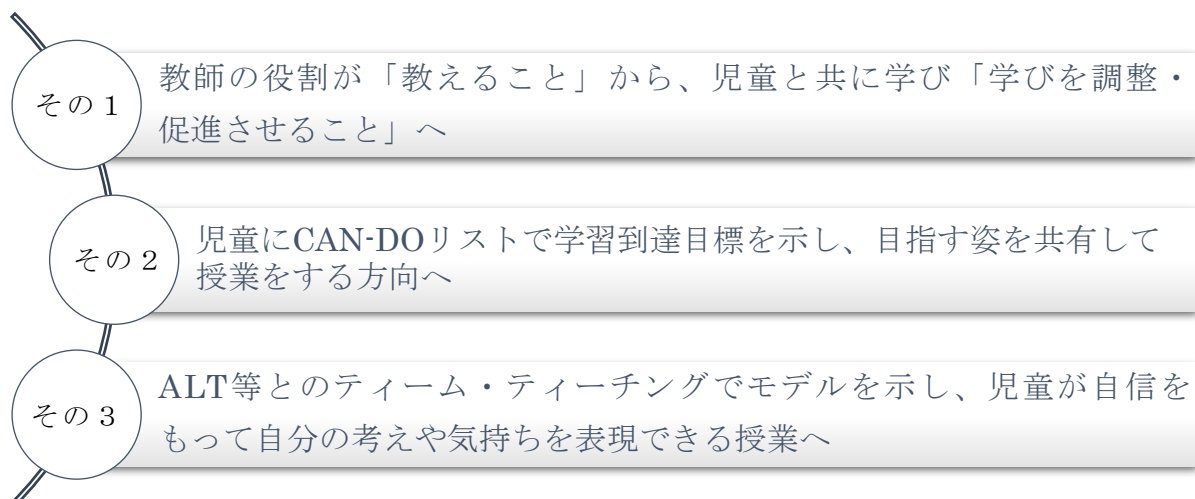
① 目指す授業の姿



② 現状と課題

項 目	現 状 と 課 題
授業を行うための英語力	英語を教えるための専門知識や教授法、発音を含む英語力に関する課題は依然として見られる。教員研修の機会が増加し、指導スキル向上を目指した支援体制が整備されつつあるが、全教員が自信を持って授業を行える状況には至っておらず、さらなるサポートが求められている。
評価の心配	令和2年度より、5・6学年で観点別学習状況の評価が導入された。評価に係る参考資料が提供されているものの、「観点別評価をどのように行うか」や「多様な児童の学びをどのように評価するか」について、さらなる実践例やサポートを求める声がある。
教科書の教材研究	教科書やデジタル教材の活用については、引き続き教材研究の支援や効果的な指導法の共有が必要とされている。

③ 児童がワクワクする授業に向けて



(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

① 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは？

文部科学省では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の例を次のように説明しています。

主体的な学び	【例】 ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる。 ・「キャリア・パスポート」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする。
対話的な学び	【例】 ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める。 ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。 ・子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。
深い学び	【例】 ・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む。 ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合ったりすることを通して集団としての考えを形成したりしていく。 ・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。



ミガコ先生

何となく分かるのだけど、外国語の授業で言うと具体的にどんなことなのだろう？

② 外国語活動・外国語科における「主体的な学び」の実現のために



つなぐ先生

教師は、「児童に外国語を学ぶことに興味や関心をもたせること」「児童が見通しをもって学び、児童自身の学習を振り返り、次につなげることができるようにすること」が大切です。

そのために、



児童の興味・関心に合う題材の選択を行い、児童が外国語を用いてコミュニケーションをすることが楽しいと感じるような活動にしましょう。
児童の興味・関心から焦点を当てる場面を精査したり、他教科とのつながりから言語活動を設定したりすると良いです。



児童が「友達の新しい面を知ることができた」「文化の違いを知り面白かった」「自分のことを英語で伝えられた」という手ごたえを感じることができれば、「次はこんなことをしてみたい」「こんなことを知りたい」という振り返りにもつながります。

③ 外国語活動・外国語科における「対話的な学び」の実現のために



相手の考えや気持ちを聞いたり、読んだりすることを通して、新たな発見をし、「そうか」「なるほど」と自分の考えや気持ちが更新されていく学びがあることが大切です。

そのために、



活動後、そのままにせず、児童が話したり書いたりしたことの振り返りの時間を確保し、次の対話につなげられるようにしましょう。

④ 外国語活動・外国語科における「深い学び」の実現のために



言語活動の中で、外国語によるコミュニケーションを図るための資質・能力を育成していくことが大切です。

そのために、



「どんな場面で」「誰に」「何を」伝えるのかを明確にした上で言語活動を行うと、児童はやり取りを通して、学習した英語を「いつ」「どのように」使うべきか、理解を深めることができます。

※「言語活動」に関する説明はP5～7に載っています。

2 授業編

(1) 言語活動について

学習指導要領では「言語活動を通して」コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することとが求められています。

では、その「言語活動」とは何でしょう。

平成 20 年 3 月に改訂された中学校学習指導要領では「言語活動」が次のように説明されています。

言語材料についての知識や理解を深める言語活動から、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動まで〔後略〕

これを見ると、これまでは言語材料についての知識や理解を深める言語活動と、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動との 2 種類あったことが分かります。

現行学習指導要領
の言語活動は？



文部科学省作成の「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」では、言語活動を次のように説明しています。

言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。(中略)言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。



学習指導要領からは、“知識及び技能を活用”し“思考・判断・表現する活動”が言語活動と言えますね。聞くことや読むことも言語活動に含まれます。日本語だけで、情報を整理しながら考えを形成する活動や英語は使っているけれど、考えや気持ちを伝え合っていない活動、定型文を言わなければならない状況での反復等は言語活動とは言い難いです。

活動	言語材料について理解したり練習したりするための指導	言語活動
教師の後でリピート	○	
チャンツ	○	
歌	○	
ポインティングゲーム	○	
Let's Listen		○（聞く言語活動）
Small Talk		○

普段授業で行っている活動で考えると・・・。





言語活動であるかどうかは、次のポイントからも確認することができます。

ポイント

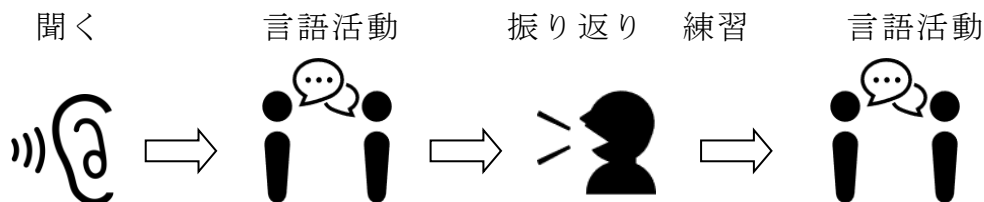
- 決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーション。
- 児童が課題を達成するために、必要な語句や文などを取捨選択し、児童が気付いたり考えたりする活動。
- 児童が興味・関心をもつ題材を扱い、話し手と聞き手の間に情報の差がある等、聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動。
- 児童が「誰に」、「何のために」という「相手意識」や「目的意識」をもって、質問したり答えたりする必然性のある活動。
- 児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定。
- 既習の簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしている。
- 指導者から児童、児童から指導者、また児童同士など、多様な形態による言語活動。

授業の流れ（例）

その 1



その 2



※**その 1**はしっかり言えるように練習はしていますが、やり取りは 1 度で終わってしまっています。**その 2**はまずやり取りをし、児童が自らの表現と正しい表現のギャップに気付いてから練習をし、再度言語活動をしています。**その 2**のように言語活動を積み重ねる流れにすると、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながります。

2 授業編



授業準備が大変そうですが、継続的にできるでしょうか。

普段の授業で言語活動を積み重ねていけばよいでしょう。
例えば Let's Listen を例に見てみましょう。



We Can! 1 Unit 1 Let's Listen 1 登場人物がどのようなものが好きかを聞いて、線で結ぼう。

Let's Listen 1 登場人物がどのようなものが好きかを聞いて、線で結ぼう。

1  Kosei	2  Saki	3  Satoshi	4  Aoi
			
			

教師： What do you see in this picture?

児童： Cat.

教師： Yes. How many cats?

児童： Two.

教師： That's right. Two cats.

I like cats very much. Do you like cats, A-san?

児童： No.

教師： Then, what animal do you like?

児童： I like dogs.

教師： Wow. I like dogs too.

例えば、

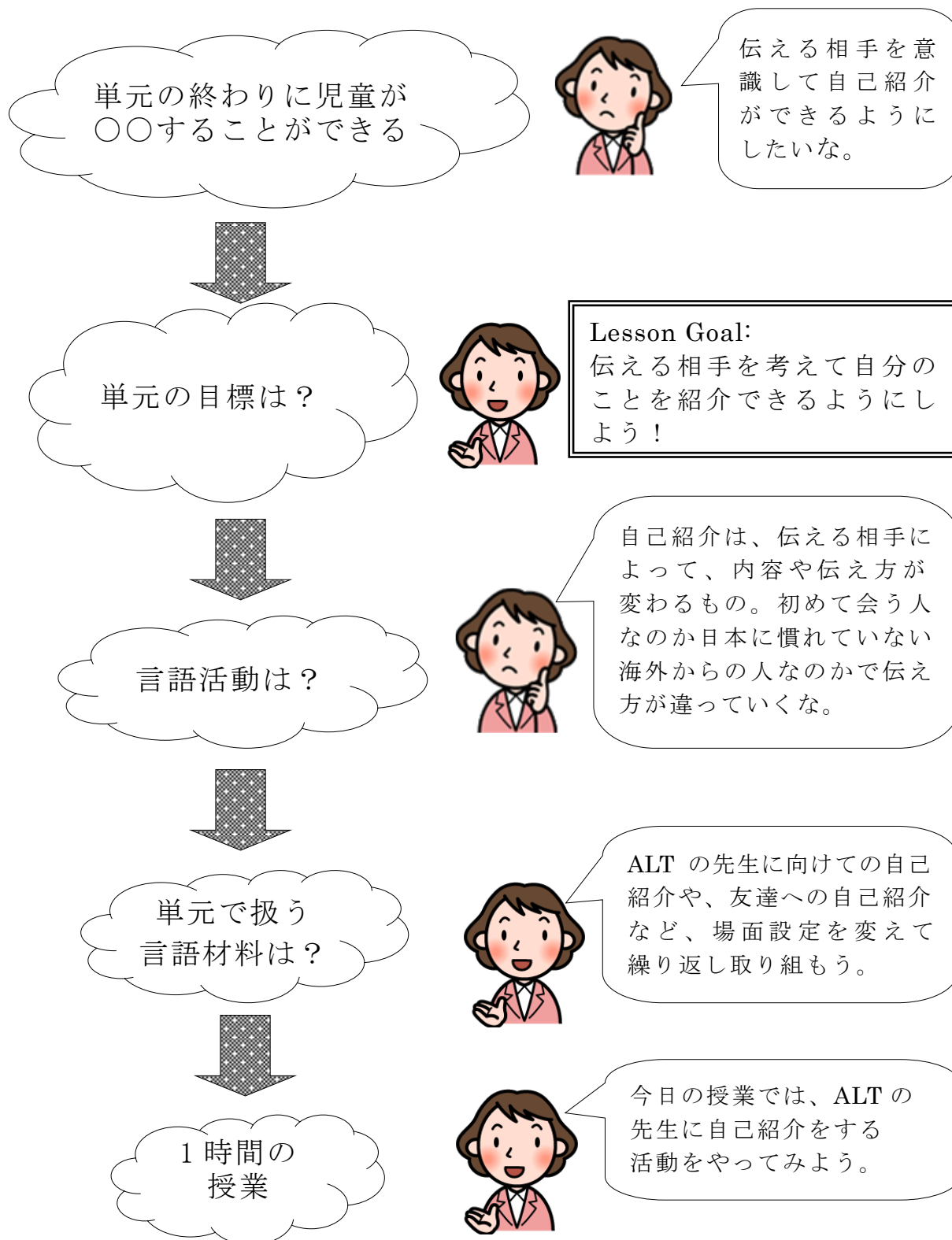
「登場人物について、もっと詳しく知るために、どのようなものが好きか聞いてみようか」等と、目的をもって聞くことで、「じゃあ、みんなはどうかな？」等と、点線で囲った部分のようなやり取りにつなげることも可能になります。ちょっとした工夫で、児童が考えや気持ちを表現することにつながりますね。



(2) 単元構想のポイント

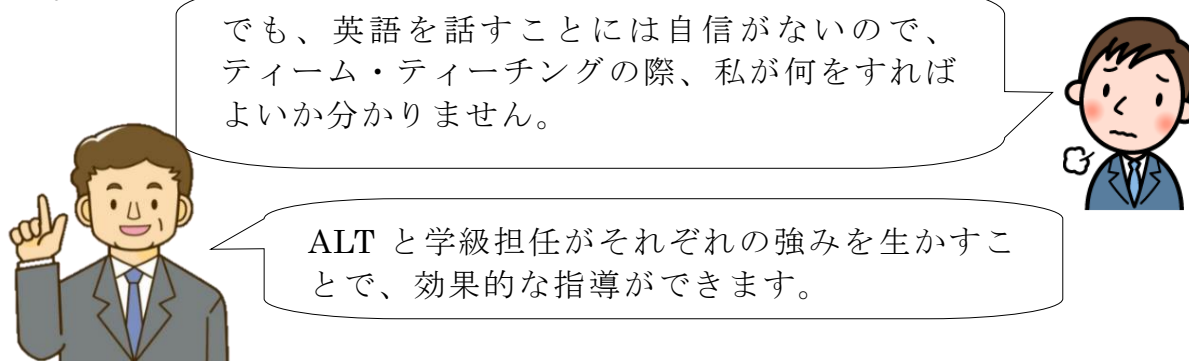
💡 育成する資質・能力や単元のゴールから逆算的に構成していくようにしましょう

ゴールから逆算的に単元を構成していくイメージ



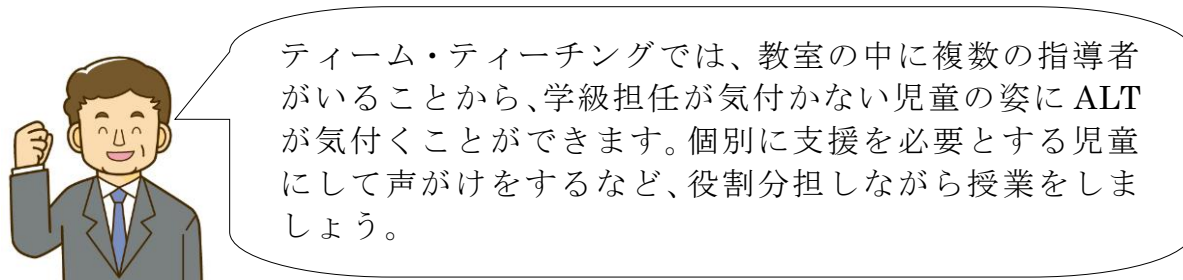
(3) ティーム・ティーチングのポイント

児童の「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するために、ティーム・ティーチングが果たす役割は大きいと言われています。



① 学級担任と ALT それぞれの強みと授業中の役割

	学級担任	ALT
強み	・ 他教科の学習状況を把握 ・ 児童の実態を熟知 ・ 児童との信頼関係が高い ・ 教育的な配慮、支援ができる	・ 場に応じた自然な英語の使い方 ・ 正しい発音 ・ 児童が英語で話す必然性を生む ・ 異文化についての学びを提供できる
役割	・ 児童の興味・関心のある話題の提供 ・ 英語を使おうとする学習者としてのモデル ・ 児童の実態を考慮した支援 ・ 計画的な指名や意図的なペア、グループ構成	・ 英語によるコミュニケーションの場の提供 ・ 自然な英語の使い方や発音のモデル ・ 異文化に関する情報提供



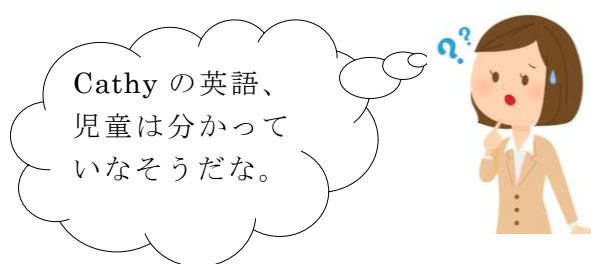
② 授業における学級担任の役割(例)

その1) 活動のモデルを示す



児童に活動の説明をするときに、実際に対話のモデルを見せると、児童は「何を」「どのように」活動すればよいか理解しやすくなります。

その2) ALTと児童をつなぐ



ALT が話をしている際に、児童の表情や反応を見て、理解していないと判断される時には ALT の発言を止め、表現を繰り返してもらったり、ゆっくり言ってもらったりして、ALT と児童をつなぎます。

その3) ALTとの役割を決める



- ・個に応じた支援や、学級のよりよい関係づくりを目指したグループ分けは、児童の実態を熟知している学級担任が行うことで、児童が安心して授業に臨むことができます。
- ・また、練習の際に教室を2つに分けて学級担任とALTが分担を決めて練習を行うと、少人数での支援ができ、児童の発話の回数も増えます。

(4) 領域別指導のポイント

①「聞くこと」

児童が「聞くこと」の力を高めるためには、相手が言っていることを推測し、理解していくようにすることが大切です。

<改善前>

ALT : 「？」の付いた封筒を提示し]

Everyone, it's quiz time.

担任 : クイズの時間だって。さあ、なんだろうねえ。

ALT : I'll give you a hint.

担任 : ヒントを出してくれるって。

ALT : Sky.

担任 : 「空」だって。

ALT : Big.

担任 : 「大きい」んだって。

(後略)

学級担任としては、ALT が話す英語を理解するのに時間がかかる児童への配慮として、日本語で意味を言っています。しかし、こういった配慮を繰り返していると、児童はALT の英語を聞いて相手が伝えようとしていることを何とか理解しようとする姿の育成につながらなくなってしまいます。



改善のポイントは「キーワードの繰り返し」と「視覚的補助」です。

<改善後>

ALT : 「？」の付いた封筒を提示]

Everyone, it's quiz time.

担任 : [キーワードを繰り返しながら]

Oh, quiz time.

ALT : I'll give you a hint.

担任 : Hint.

ALT : Sky.

担任 : [教室外を指しながら]

Sky.

ALT : Big.

担任 : [大きさを表すジェスチャーしながら]

Big.

(後略)

ポイント :

ALT が話す英語の中から理解を促すキーワードを児童の様子を見ながら必要に応じて繰り返しましょう。

ポイント :

児童が英語を理解する手助けとしてジェスチャーなどの視覚的補助を入れましょう。

(Let's Try! 1 Unit 4 I like Blue. より)

「聞くこと」に焦点をあてた授業をするときに、こんな
感じでいいのでしょうか。



<改善前>

担任 : Let's Listen 1 に取り組みましょう。3 人の友だちが、
何色が好きか線で結びましょう。

OK, let's listen. [再生ボタンをクリック]

No.1: Hello, I'm Takeru. I like yellow.

No.2: Hi, I'm Sayo. I like blue.

No.3: Hello, my name is Robert. I like red.

さあ、どうかな。線で結べましたか。

児童 : 最後の人の名前、なんだって？

担任 : では、答えを見てみましょう。

[Answer ボタンをクリック]

(後略)

いきなり音声を聞かせて
線を引かせようとしたが、特に聞きなれない
登場人物の名前が聞き
取れず、線で結べない
児童がいました。



改善のポイントは「聞くための準備」です。

<改善後>

担任 : OK. Let's try "Let's Listen 1." Three characters.
[デジタル教材を提示] This is Takeru. This is
Sayo, and this is Robert.
And look. This is pink. Do you like pink,
A-san?

児童 A : Yes, I like pink.

担任 : [A 児と同様の児童を確認するために]

"Me, too.", raise your hands.

[などやり取りをする]

[デジタル教材を指し] This is Takeru.

This is Sayo, and this is Robert.

What color do they like? Let's listen.

[再生ボタンをクリック]

(後略)

ポイント :

児童が音声を聞く前に、
内容に関連したやり取り
を行いましょう。やり取
りの中で、聞くことに必
要な語彙や表現に児童は
自然な形で触れることが
できます。

(Let's Try! 1 Unit 4 I like Blue. より)

②「読むこと」

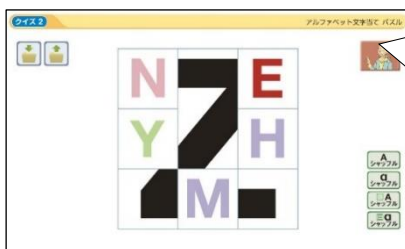
5・6年生では「読むこと」の言語活動も行います。児童がどの程まで「読むこと」ができるようになればよいか目標を確認しましょう。



5・6年生では、児童が活字体で書かれた文字（アルファベット）を見て、以下の2つができるようになることを目標にしています。

- ①大文字・小文字の識別
- ②アルファベットの読み方（エイ、ビー、スィー…）の発音

担任 : Which alphabet card do you want?
 児童 A : The G card, please.
 担任 : OK. Next. Which card do you want?
 児童 B : I want the H card.



ポイント :

下に隠れた文字を当てるために、児童と文字についてやり取りしながら1つずつ文字を読み上げてパネルを外していきます。児童が楽しみながら文字を読むことに触れていきます。

(Hi, friends! Plus より)

この活動は We Can! のデジタル教材にも入っています。ご利用ください。

児童 : Hi, I'm Kosei.
 ALT : One more time, please.
 児童 : K-O-S-E-I. Kosei.
 ALT : I see. Nice to meet you, Kosei.

(We can! 1 Unit 1 Hello, everyone より)

ポイント :

ALT への自己紹介の際、自分の名前に使われている文字を読み上げます。自己紹介という場面があることで、活字体を読むことの必要感を生み出しています。

③「話すこと [やり取り]」

単元で学ぶ語彙や表現の練習を十分してから言語活動をするのではなく、言語活動を通して語彙や表現を身に付けていくようにしましょう。

<改善前>

担任 : [パフェの材料を集める活動の中で]

フルーツの言い方は大丈夫かな？

みんなで一緒に言ってみましょう。[絵カードを提示]

lemon, peach, apple, pineapple ...

児童 : lemon, peach, apple, pineapple ...

担任 : ちょっとうまく言えていないのがあるね。

もう一回、言ってみましょう。

lemon, peach, apple, pineapple ...

児童 : lemon, peach, apple, pineapple ...

(後略)

(Let's Try! 2 Unit 7 What do you want? より)

先生は、活動の際に児童が困らないように、語彙について丁寧に扱っているつもりですが、ドリル的なリピートになっています。



改善のポイントは「やり取りをする場面づくり」です。

<改善後>

担任 : OK, everyone. Look at this.

What's this? [パイナップルのカードの一部分を提示]

児童 A : Pineapple!

担任 : That's right. It's a pineapple. I like pineapples.

Do you like pineapples, A-san?

児童 A : No.

担任 : Oh, you don't like pineapples. How about this? [桃のカードを提示]

Do you like peaches?

児童 A : Yes! I like peaches.

担任 : I see. How about you, B-san?

児童 B : I like peaches, too

(後略)

ポイント :

機械的な練習により語彙を言わせるのではなく、児童がやり取りを通して発話するように場面をつくっています。

ポイント :

出てきたフルーツについて児童の考えや気持ちを引き出すやり取りをしています。

④「話すこと〔発表〕」

児童が伝えようとする内容を整理し、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにすることが大切です。

<改善前>

Activity 好きなものやほしいものを□に書いて、自己紹介をしよう。



Hello. I am Takuya.
I like blue.
I want a cat.
I like tennis.
(以下略)

上記のメモを基に、自己紹介をしています。好きなものやほしいものとして思い浮かんだものを表現しているだけになっています。伝えようとする内容を整理し、自分の考えや気持ちなどを表現する状態になっていません。

(We can! 1 Unit 1 Hello, everyone より)



改善のポイントは、聞き手にわかりやすく伝えるように「話す順番を決めたり、内容を選んだりすることのモデルを示すこと」です。

<改善後>



- ・スポーツ→色という順番で発表しよう
- ・聞き手に伝わるように関連させて話そう

Hello. I am Ken.
I like tennis.
I want a new racket.
I like blue.
I want a blue racket.
(以下略)

ポイント：

自己紹介の中で好きなものやほしいものに関連したことを話すために、以下の順番による発表をモデルとして示しましょう。

好きなスポーツ

→ほしいもの

→好きな色

→どんな色の何がほしいか

⑤「書くこと」

5・6年生では、「書くこと」の言語活動を行います。児童がどの程度までできるようになればよいか目標を確認しましょう。

アルファベットや単語などは、何を、どの程度書けるように指導すればよいですか。



以下のことが目標となっています。

- ・大文字、小文字を活字体で書くことができる
- ・音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を、語順を意識しながら、書き写すことができる
- ・自分のことや身近なことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書くことができる

児童が英語の綴りを覚えて書くことは求められません。聞いたり話したりして十分に慣れた単語を見て書き写すことができるようになることを目標としています。



掲示されている国名から行きたい国を選択して



I want to go to Canada.

と書き写すことができること。

(5) 小学校外国語教育の評価

① 評価の観点及びその趣旨（３・４年）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

② 評価の観点及びその趣旨（５・６年）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
聞くこと	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり、短い話の概要を捉えたりする技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方（名称）を発音する技能を身に付けている。音声で十分に慣れ	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方（名称）を発音している。音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読んで意味を分かろうとしている。

	親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かるために必要な技能を身に付けている。		
話すこと「やり取り」	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりする技能を身に付けている。日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合ったりする技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、指示、依頼をしたり、それらに応じたりしている。日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと「発表」	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話す技能を身に付けている。身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のことについて話している。身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと	〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 〔技能〕 実際のコミュニケーションにおいて、大文字・小文字を活用	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、大文字・小文字を活用して書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書い

書くこと	字体で書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりする技能を身に付けている。自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く技能を身に付けている。	したりしている。自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。	たりしようとしている。
------	--	---	-------------



毎時間の授業で、全ての観点の評価しなければならないのですか。

毎時間、全ての観点の評価する必要はありません。
また、単元において、全ての観点の評価する必要はありません。
単元では、指導を行い児童の力を高める時間と、記録に残す評価をする時間があります。
バランスよく計画を立てるようにしましょう。

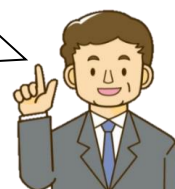


「主体的に学習に取り組む態度」は、これまでの評価の観点である「関心・意欲・態度」と同じですか。

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする力、自分の学習を振り返って、何が足りて何が足りていないかを捉える力の両方の側面を行動観察や自己評価からみます。



挙手の回数や、毎時間ノートをしっかり書いているといったことを評価するのではないということをもう一度確認をしておきましょう。



③評価規準の設定例

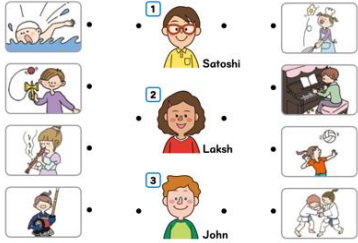
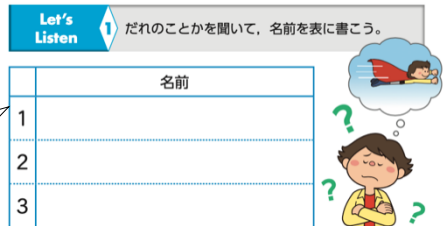
話すこと〔やり取り〕

知識・技能	知識	身の回りの物を表す語や、 <u>I like /want /have~.、 Do you ~?、 What do you ~?</u> の表現について理解している。 言語材料
	技能	<u>自分や相手のことについて、</u> 事柄・話題 身の回りの物を表す語や、 <u>I like /want /have~.、 Do you ~?、 What do you ~?</u> 等を用いて 言語材料 <u>考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</u> 内容
思考・判断・表現		<u>新しくやってきた ALT のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、</u> 目的等 <u>自分や相手のことについて、</u> 事柄・話題 簡単な語句や基本的な表現を用いて、 <u>考えや気持ちなどを伝え合っている。</u> 内容
主体的に学習に取り組む態度		<u>新しくやってきた ALT のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、</u> 目的等 <u>自分や相手のことについて、</u> 事柄・話題 簡単な語句や基本的な表現を用いて、 <u>考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</u> 内容

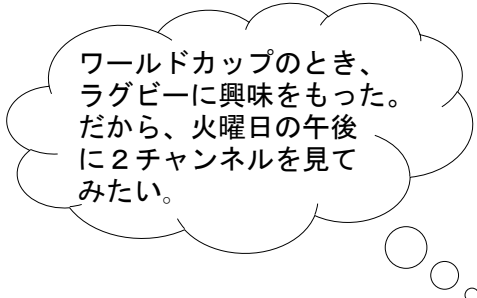
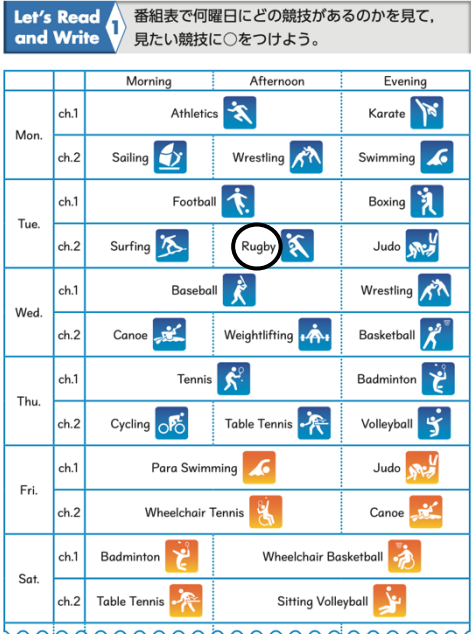
読むこと

知識・技能	知識	<u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u> について理解 言語材料 している。
	技能	<u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u> を識別したり、 言語材料 その読み方を発音したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現		<u>ALT</u> などに自分の名前のスペリングを理解してもらったり、 <u>ALT</u> や友達の名前のスペリングを確認したりするために、 目的等 <u>名前のスペリング</u> を識別し、発音している。 事柄・話題
主体的に学習に取り組む態度		<u>ALT</u> などに自分の名前のスペリングを理解してもらったり、 <u>ALT</u> や友達の名前のスペリングを確認したりするために、 目的等 <u>名前のスペリング</u> を識別し、発音しようとしている。 事柄・話題

①聞くこと

	内容のまとまりごとの評価規準(例) →以下を基に単元の評価規準を作成	評価の具体(例)
知識・技能	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	①絵やイラストを結び付けること (教科書またはワークシートへの記入状況)  ②具体的な情報を聞き取ること (教科書またはワークシートへの記入状況) 
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。 Who am I? I have a bell. I like <i>dorayaki</i>. I can fly. I have a miracle pocket. I'm a robot. クイズに答えるために必要な情報を得るように聞く活動	①短い会話や説明などある程度まとまりのある英語を聞いて必要な情報を得ること (教科書またはワークシートへの記入状況)  ②短い話の概要を捉えること (教科書またはワークシートへの記入状況) 
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されたものを聞こうとしている。	思考・判断・表現と一体的に評価 (振り返りシート等の記述を参考)

②読むこと

内容のまとまりごとの評価規準(例) →以下を基に単元の評価規準を作成		評価の具体(例)	
知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の大文字・小文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。	①活字体の大文字・小文字を識別し、読み方を発音すること  大文字や小文字を提示 ②ALT へ自己紹介の際、自分の名前に使われている活字体の文字を読み上げること  Hi, I'm Kosei. One more time, please.  K-O-S-E-I. Kosei. Kosei. I see. 	
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている。 	日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得ること 
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたものの意味を分かろうとしている。	思考・判断・表現と一体的に評価 (振り返りシート等の記述を参考)	

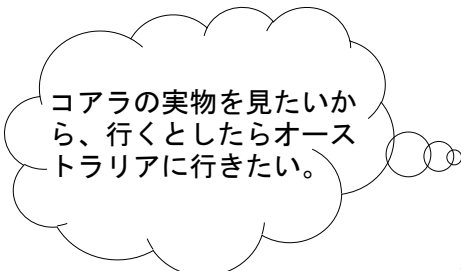
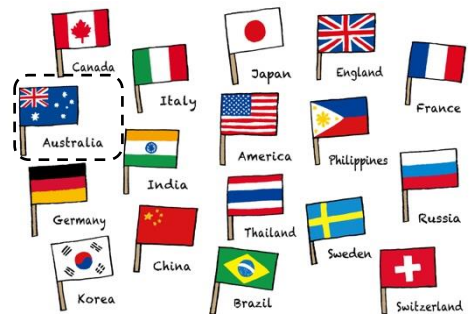
③話すこと [やり取り]

	内容のまとまりごとの評価規準(例) →以下を基に単元の評価規準を作成	評価の具体(例)
知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合ったりする技能を身に付けている。	例を基に、簡単な語句や表現を用いて質問をしたり答えたりする伝え合い 【誕生日が記載されたカードを友達に渡す活動】 1回目 ※例を基にやり取り (行動観察)  When is your birthday? My birthday is April 14th. April 14th. Oh, this is your birthday card. Thank you very much.
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合ったりしている。	【目的や場面、状況に応じた伝え合いの場面】 2回目 (行動観察)  When is your birthday? My birthday is April 14th. April 14th. Oh, this is your birthday card. Thank you very much. (カード上の絵の色を話題にやり取りを継続) (カードに青色が使われていたので) Do you like blue? Yes, I do. Look at my T-shirt. (青のTシャツを着ていることを強調) How about you? I like yellow and black. I like Hanshin Tigers. I'm a big fan.
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。	思考・判断・表現と一体的に評価 (行動観察や振り返りシート等の記述を参考)

④話すこと [発表]

	内容のまとまりごとの評価規準(例) →以下を基に単元の評価規準を作成	評価の具体(例)
知識・技能	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話す技能を身に付けている。身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す技能を身に付けている。 ※小学校学習指導要領p.157「2 内容〔第5学年及び第6学年〕」の「知識及び技能」における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記されている「音声」の特徴を捉えて話すことについては、それ自体を観点別評価の規準とはしないが、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材を活用したり、デジタル教材等を活用したりして適切に指導を行う。	例を基に、簡単な語句や表現を用いて表現すること (行動観察) 【例】先生がモデルを例示 Midori city is nice. We have a big station. We don't have a park. Activity 1 自分たちの町について発表しよう。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のこと、身近で簡単な事柄について、伝える内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。 Hello. My name is Yuta. I play soccer. I like yellow. I have yellow soccer shoes. I like my shoes very much.	伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話すこと (行動観察) Activity 好きなものやほしいものを□に書いて、自己紹介をしよう。 colors sports animals TV programs foods 内容を整理 最近買ったサッカーシューズの話をするために好きなスポーツと色の話をつなげていこう。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	思考・判断・表現と一体的に評価 (行動観察や振り返りシートの記述を参考)

⑤書くこと

	内容のまとまりごとの評価規準(例) →以下を基に単元の評価規準を作成	評価の具体(例)
知識・技能	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の大文字・小文字を書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりする技能を身に付けている。	活字体の大文字・小文字を活字体で書くこと (ワークシートから評価) 先生や ALT が大文字や小文字を発音  児童は文字を記入  
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、書いたりしている。 	「話すこと[やり取り]」の活動で What country do you want to go?  掲示されている国名から選択して  I want to go to <u>Australia</u>. やり取りの後、国名を書き写し (ワークシートから評価) I want to go to  <u>Australia</u>. 活動後、行きたい国についてのポスターを作成する際、例文を参考に書き写した作品での評価も可能 (作品評価) 
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて書き写したり書いたりしようとしている。	思考・判断・表現と一体的に評価 (ワークシートや作品評価、振り返りシート等の記述を参考)

(6) 実践事例

①「聞くこと」

1 単元名

I like my town. 自分たちの町・地域

〔WC 2 Unit 4〕

教科書との関連	
東京書籍	⑤U5
開隆堂	⑤L7
三省堂	⑥L1
光村図書	⑤U8
啓林館	⑥U3

2 単元の目標

ALT に自分の町のことをよく知ってもらったり相手の町のことをよく知ったりするために、地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなどについて、具体的な情報を聞き取ったり、地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなどについて伝えたりできる。また、地域にあるものなどについて例文を参考に書き写すことができる。

※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

3 言語材料

○We have / don't have [a park]. We can [see many flowers]. We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. [Sakura] is nice.

○town, 施設・建物(amusement park, aquarium, swimming pool, stadium, roller coaster, Ferris wheel), nature, 動作(fishing, dancing, jogging, playing, reading, shopping, singing, walking), nest

〔既出〕施設・建物(library, school, park)、状態・気持ち、飲食物、動作、スポーツ、enjoy, have, want, buy, see, eat, play

4 単元終末の「聞くこと」の言語活動

- ・相手（Hana と Kenta）の町のことをよく知るために、地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなどについて、具体的な情報を聞き取る。

5 「聞くこと」に関する単元の評価規準

知識・技能	知識	施設や建物の言い方、地域にあるものや欲しいものなどを表す We have / don't have ～.や We can enjoy ～. I want a ～. ○○is nice.について理解している。
	技能	地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。
思考・判断・表現		相手の町のことをよく知るために、地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなどについて、短い話の概要を捉えている。
主体的に学習に取り組む態度		相手の町のことをよく知るために、地域にあるものや欲しいもの、地域の良さなどについて、短い話の概要を捉えようとしている。



内容のまとめりとごとの評価規準（例）は P18～22 参照

6 単元計画

児童が地域にあるものや欲しいもの、良さなどについて、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりできるようになるための「聞くこと」の単元指導計画（全8時間）

時	◆目標 / ○主な学習内容及び活動	指導の POINT
1	◆地域にあるものやないもの、欲しいものについて聞いて理解できる。 ○Small Talk：学校で好きな場所 ○ALT の出身地や教師が住む地域についてのポスターを見ながら発表を聞いて、単元の目標を理解し、見通しをもつ。 ○Let's Listen1 で地域にあるものとなないものなどについて聞き、施設や建物の表現を理解する。	教師と ALT が単元終末の活動の見本を見せ、児童が単元の見通しや興味をもてるようにします。
2	◆地域にあるものとなないものについて聞いたり、伝え合ったりできる。 ○Small Talk：町で好きな場所 ○Let's Listen2 で、地域にあるものとなないものについて聞き、あるものやないものを伝える表現を理解する。 ○We have a(an)○○.の表現を使ってキーセンテンスゲームを行い、指示を出すときの表現を身に付ける。 ○地域にあるものを考え、画用紙に簡単な絵を描いたり写真やイラスト等を準備したりする。 ○描いた絵等を友達に見せながら、地域にあるものについて伝え合う。	Let's Listen のイラストや音声を通して、使われる表現に気付かせたり、慣れ親しませたりします。 自分の考えを伝える時の補助として、絵を用いるようにします。絵を描いた画用紙に英文を書き写し、最終的にポスターに仕上げます。
3 本時	◆地域にあるものとその良さについて聞いたり、伝え合ったりできる。 ○Small Talk：週末に行った場所 ○Let's Listen3 で登場人物の地域にあるものとその良さについて聞き、良さを伝える表現を理解する。 ○地域にあるものとその良さを考え、全体で共有する。 ○全体で共有された「あるもの」の英文を聞き、良さを伝える表現を身に付ける。 ○前時に描いた絵等を友達に見せながら、あるものと良さを伝え合う。	
4	◆地域に欲しいものについて聞いたり、伝え合ったりできる。 ○Let's Watch and Think2 の前半で、登場人物が地域に欲しいものについて見聞きし、欲しいものを伝える表現を理解する。 ○I want a(an)○○.の表現を使ってキーセンテンスゲーム等を行い、指示を聞いて反応したり、指示を出したりする表現を身に付ける。 ○地域に欲しいものを考え、前時の画用紙に欲しいものの絵を描き加える。 ○描いた絵を見せながら、地域に欲しいものについて友達と伝え合う。	

5	◆地域に欲しいものとその理由について聞いたり、伝え合ったりできる。 ○Small Talk：学校の中に欲しいもの ○Let's Watch and Think2 の後半で、登場人物が地域に欲しいものとその理由について見聞きし、理由を伝える表現を理解する。 ○グループで地域に欲しいものとその理由を考え、全体で共有する。 ○全体で共有された「欲しいもの」の英文を聞いて、それに合う理由をクラス全体で考えながら理由を伝える表現を身に付ける。 ○前時に描いた欲しいものの絵を友達に見せながら、欲しいものとその理由を伝え合う。	
6	◆地域について友達と伝え合い、例文を参考にして書くことができる。 ○Small Talk：私たちの町 (あるものやその良さ、欲しいもの、理由) ○Activity2 の例文を見聞きして、“誰に何のために書くのか”や、英文の書き方を確認する。 ○例文、Picture Dictionary、ワードリスト等を参考にしながら、前時の画用紙の絵の近くに、地域にあるものやほしいもの、地域の良さなどを表わす英文を書き写して、ALT に自分たちの住む地域のことをより知ってもらうためにポスターを完成させる。	Small Talk で地域にあるものなどを伝えた後、書く活動に入るようにします。 これまでに使ってきた画用紙に英文を書き写し、ポスターを完成させます。
7	◆地域紹介についてアドバイスし合いより伝わりやすいものにできる。 ○グループの友達にポスターを見せながら自分の地域について伝える。 ○友達の発表を聞き、ALT によく伝わるようにするための工夫や改善点等をアドバイスし合う。 ○もらったアドバイスを意識して、個人で練習する。 ○再度、グループの友達に伝え、本時の学習を振り返る。	友達に一度伝えた後、より良い発表ができるように中間指導の時間を設けた上で、再度挑戦するようにします。
8	◆ALT の〇〇先生に、自分たちの地域について紹介することができる。 ○ALT の町についての発表を聞く。 ○ALT にポスターを見せながら、既習の言語材料を用いて、自分の住む地域について自分の考えを伝える。 ○単元の学習を振り返る。	ALT に、見本を示してもらったり、児童が住む町のことを知りたい気持ちを語ってもらったりして、活動の目的を確認してから、発表に入ります。

7 本時案（全8時間中第3時）

準備品：ピクチャーカード（施設・建物、感想）、デジタル教材

時間	児童の活動	指導	・ここがポイント ◎評価〈方法〉
6分	1 Small Talk ○週末にどこかへ出かけたか、行った場所やしたこと等について教師やALTと英語でやり取りする。	- 行った場所やしたことややり取りをALTと行い、見本を示す。 - ALTから児童に質問をして、やり取りを進める。	<u>ここがポイント</u> ALTと教師でやり取りし、どんな事柄について何を伝え合うか等、児童が見通しをもてるようにします。
6	2 Let's Chant ○I like my town.のチャンツを練習する。	- デジタル教材で画像を提示し、建物の語句に触れられるようにする。 - デジタル教材を「ゆっくり」→「ふつう」→「音声なし」に設定し、児童と一緒に言う。 - 児童の口の動きを見て、自信が無さそうな表現を取り上げ、リピート等で練習する。	<u>ここがポイント</u> チャンツを段階に分けて言ったり、練習を入れたりして、だんだんと自信をもって言えるように支援していきます。
8分	3 Let's Listen ○Let's Listen 3 登場人物名、地域にあるものとその良さ、そこのできること、のリスニングポイントを基に、音声を聞く。	デジタル教材で画像を提示し、ALTや児童とやり取りしながら、児童がリスニングスクリプト（音声）に出てくる語句に触れるようにする。	<u>ここがポイント</u> いきなり聞かせるのではなく、まずはALTや児童とやり取りしながら、どんな英語が出てきそうか予想してから音声を聞きます。
	Let's Listen 3 (元の文) ラクシュ：Hello, Hana. はな：Hello, Laksh. ラクシュ：Where do you live? はな：I live in Midori city. Midori city is nice. We have beautiful mountains. We can go hiking. ラクシュ：Nice.		
	実際のやり取り〔P29の絵を見せながら〕 ALT: We can see a girl. Her name is H-A-N-A JTE: What do you read? Ss : は、な... Hana! JTE: That's right! She is Hana.		
	〔画像を見せながら〕 JTE: What's this? Ss : Hiking. ALT: That's right. Do you like hiking? Ss : んー, Yes. ALT: Oh, you like hiking! Me, too! I like hiking. How about you, ○○?		 hiking  camping  fishing

		・登場人物名、地域にあるもの、その良さ（そこでできること）の聞く観点を確認し、紙面の表に答えを書くように指示する。 ・英語でやり取りをしながら聞き取った内容を確認する。	◎登場人物の地域にあるものや良さについて、具体的な情報を聞き取っている。 <行動観察・教材への記述分析> 【「聞くこと」の記録に残す場面】 児童が聞き取る様子や教材への記述を分析し、全員の評価の記録を残す。
20分	4 Let's Talk ○自分たちの地域にあるものとその良さを考え、全体で共有する。	・自分たちの地域にあるものやそこでできることを問いながら、児童やALTとやり取りする。	
	〔P28の絵を見せながら〕 ALT: What do you have in Matsumoto? Ss : 松本城 JTE: Yes. We have 松本城. What's 松本城 in English? Ss : えーっと, Matsumoto . . . JTE: Everyone, what's 松本城 in English? Ss2: Matsumoto . . . castle? JTE: Matsumoto castle. Is it OK? ALT: It's OK. In Matsumoto, you have Matsumoto castle! We have many tourists. JTE: We can buy おみやげ.		<u>ここがポイント</u> ・児童が答えを日本語で言った際は、全体で何と言うか考えたり、教師が英語で言い直したりします。自分が知っている英語の中から表現しようとする機会がもてます。
	○地域にあるものについての話を聞いて、自分が考える地域の良さを伝え合う。 ○地域にあるものと良さをペアの人に伝える。 ○表現を確認する。 ○クラスの友達に伝える。 ○代表の児童がALTに英語で伝える。	・英語で言えなかったこと等を全体で共有し、ALTとやり取りしながら表現の確認をする。 ・改善した紹介になるように促す。 ・机間指導の中で指名計画を立てる。 ・代表児童に紹介を促す。	<u>ここがポイント</u> ・見本の際、声の強弱をつけたり、間をとったりして理解を促します。
			<u>ここがポイント</u> ・座席表に児童の様子を書き込みながら、指名する児童を決めていきます。
5分	5 Reflection ○本時を振り返り、分かったことやできるようになったことを振り返りシートに記入する。	・児童が気付いていない良い取り組みを評価する。	

②「読むこと」

1 単元名

What would you like? 料理・値段

〔WC 1 Unit 8 〕

教科書との関連	
東京書籍	⑤U6
開隆堂	⑤L6
三省堂	⑥Try 買い物
光村図書	⑤U7
啓林館	⑤U6

2 単元目標

自分の好きなものや欲しいものなどを伝えるために、料理名や値段など、具体的な情報を聞き取ったり、自分の好きなものや欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、音声で十分に慣れ親しんだ料理名などを読み取ったり、声に出して読んだりしている。

※なお、本単元における「話すこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

3 言語材料

○What would you like? I'd like (spaghetti). It's for (my brother). This is for (my brother). How much? It's (970yen). Here you are. Thank you.

○飲食物(curry and rice, French fries, fried chicken, grilled fish, radish, broccoli, mineral water, parfait, bread, drink, soda pop, green tea, beefsteak, rice, yogurt), 家族(father, mother, sister, brother, grandfather, grandmother), busy, enjoy, would, special, healthy, menu, meal, restaurant, dessert, main, side, 数 (seventy, eighty, ninety, hundred), vest, wolf

〔既出〕果物・野菜、飲食物、状態・気持ち、数(1～60)

4 単元終末の言語活動

- ・レストランで注文をする場面で、メニューを読みながら家族のために注文する内容を考え、伝え合う。

5 「読むこと」に関する単元の評価規準

知識・技能	知識	※活字体の大文字・小文字を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付ける目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。
	技能	
思考・判断・表現		自分の好きなものや欲しいものなどを伝えるために、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現などを読み取ったり、声に出して読んだりしている。
主体的に学習に取り組む態度		自分の好きなものや欲しいものなどを伝えるために、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現などを読み取ったり、声に出して読んだりしようとしている。

注) 読むこと、書くことの「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」について、本実践事例のように、各校で実施する言語活動によっては評価することが可能ですが、5年生用の教科書に設定されている言語活動では評価ができないため、主に6年時に評価することになります。



内容のまとめりごとの評価規準（例）は P18～22 参照

6 単元計画

児童が英語で書かれたメニューを推測して読みながら、レストランで注文ができるようになるための「読むこと」の単元指導計画（全7時間）

時	◆目標 / ○主な学習内容及び活動	指導の POINT
1	◆丁寧に注文を尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ○Small Talk:夕飯で食べたもの ○ALT の国の食べ物や日本との違い、レストランの注文方法やマナーの違いについて聞き、レストランや料理について興味をもつ。 ○ALT の「日本の食べ物やレストラン（食堂）について教えてください」という問いかけから「丁寧に注文をしたり、メニューを読んだりしよう」という単元の目標を把握する。 ○地域にあるおすすめのレストラン（食堂）への行き方やメニューを既習表現の‘Go straight.’ ‘Turn right/ left.’ ‘You can eat ～.’を使って ALT に伝える。	指導の POINT
2	◆日本語と違う食べ物の名前の言い方が分かる。 ○Small Talk:朝ごはんのメニュー ※Small Talk は単元を通して What would you like? I'd like～.を使い、本単元で学習する表現に慣れ親しむ。 ○Let's Watch and Think 1 を見て、世界の料理を知り、単元を通して扱う料理の表現に興味をもつ。 ○Food Jingle を用いて食べ物の名前に慣れ親しむ。	日本で使用されているカタカナ英語との音の違いや、表現の違いに気付かせるようにします。
3	◆値段を尋ねたり答えたりすることができる。 ○Small Talk : 好きなおにぎりの具材～海外から来た人向けに勧めるとすればどのようなものがよいか～ ○I'd like ～. の表現を I want to との比較から丁寧な表現であることを知る。 ○黒板に P64、65 のメニューと価格を提示し、食べたい物を友だちと伝え合う。	第3時と4時で丁寧な表現を知り、繰り返し学習していきます。
4	◆丁寧に注文を尋ねたり答えたりする表現を使って、簡単なやり取りができる。 ○Small Talk:好きなレストラン～味、価格、雰囲気の面からおすすめのレストランを紹介する～ ○What would you like? を What do you like? との比較から丁寧な表現であることを知る。 ○食べ物のワークシートを見ながら友だちと What would you like? I'd like～.を練習する。	「もし昼食代として〇〇円自由に使えるとしたら何を食べたいか」のように、場面や状況などを明確にします。

5 本 時	◆食べたい物や飲みたい物を尋ねたり答えたりすることができる。
	○Small Talk：好きな冬の食べ物～ALT の先生に日本の冬の食べ物を紹介しながら（餅、おでん、鍋物等）～
	○Let's Watch and Think2 に向け Kosei の欲しい物を予想させ、児童の興味を喚起する。
	○Let's Watch and Think2 を見て Kosei の欲しい物をメモする。
	○食べ物の絵の提示から文字のみの提示へ移行し、文字での表現に慣れさせる。
	○ペアで食べたい物や飲みたい物についてやり取りする。
6	◆メニューを読み、家族が食べたい物を注文できる。
	○Small Talk：地域でおすすめのレストラン（ALT の友人に紹介する）～ALT の友達のために地域でおすすめのレストランを紹介する～
	○祖父、祖母の呼び方を表す表現を復習し、Let's Listen2 と Let's Listen3 の内容につなげる。
	○P60 のおじいさんとおばあさんが注文している物を予想する。
	○Let's Listen2 と Let's Listen3 を見て、おばあさんとおじいさんが欲しい物を伝え合う
7	◆メニューの中から、家族が喜ぶようなメニューを選び注文できる。
	○Small Talk：好きな給食～ALT の先生におすすめのメニューを紹介する～
	○Let's Listen 4 を見た後で、メニューを見ながら、自分の家族にあった注文を考える。
	○ウェイター役と客役に分かれ、レストランの場面設定で注文を伝え合う。

いきなり聞かせるのではなく、児童が聞き取りのポイントを理解した上で聞くことができますようにします。

7 本時案（全7時間中第5時）

準備品：ピクチャーカード（食べ物・飲み物）、デジタル教材

時間	児童の活動	指導	・ここがポイント ◎評価〈方法〉
8分	1 Small Talk ○「好きな食べ物」について教師とやり取りをする。 ○ALTの好きな食べ物を推測して読む。	・「カレーを食べるとしたら何を一緒に飲みますか？」と尋ね、児童が自分の考えや気持ちを英語で伝えたいと思う状況を設定する。→自然と飲み物から食べ物の話題に移す。 ・数名の児童とやり取りした後、ALTの好きな食べ物を尋ねてみる。 ・I like～.と言いながらALTは好きな食べ物を板書する。	・ここがポイント ◎評価〈方法〉 ・ここは、文字に対して興味・関心を引き出すことがねらいです。文字を見て推測させることに留めます。
12分	2 Let's Listen ○Let's Watch and Think2を視聴し、Koseiが欲しい食べ物について分かったことをメモに書く。 ○自分の食べたい物についてALTや教師とやり取りをする。 ○P61のLet's Chantを使ってWhat would you like～? I'd like～の表現に慣れ親しむ。	・まず、場面を伝え、Koseiが何を選ぶか教師とやり取りをしながら予測させる。その後、分かったことをメモに書くよう伝える。 ・様子を見て、複数回視聴させる。 ・シェフに扮し、最初は絵と文字を入れて食べ物の絵を提示し、児童が慣れてきたら文字のみの提示に移行する。	・ここがポイント ・いきなり答えを書くのではなく、予測させてから聞かせます。 ・ここがポイント ・答えを確認する前にKoseiが使用する表現に慣れ親しんでおくことが大切です。視聴内容を確認した後、複数名の児童に設定を伝えWhat would you like?と尋ね、これらの表現を確認していきましょう。
15分	3 Activity ○レストランで注文する例を基に、ペアで、食べたい物や飲みたい物を尋ねたり答えたりする。	・モデルを示し、P64、65のメニューと巻末の絵カードを使って、ペアでやり取りをするよう伝える。	・ここがポイント ◎「読むこと」について目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。記録に残す評価は第7時に行う。
5分	4 Let's Read ○ペアで飲食物のリストを読んでみる。	・巻末のWord List③飲食物のページをメニューに見立て、絵の部分を隠して読んでみるよう促す。	◎「読むこと」について目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。記録に残す評価は第7時に行う。
5分	5 Reflection ○授業を振り返り、次の時間への目標を考える。	・具体的な振り返りができている児童を取り上げ紹介する。	・ここがポイント ・学習カードに自分の次時の目標を書くよう促します。

③ 「話すこと [やり取り]」

教科書との関連	
東京書籍	⑤U1
開隆堂	⑤L3
三省堂	⑤L2
光村図書	⑤U3
啓林館	⑤U1

1 単元名

What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業
〔WC 1 Unit 3〕

2 単元の目標

アメリカから来た ALT に、日本の学校のことを理解してもらうために、学校生活や時間割、自分たちのクラスのことなどについて、短い話を聞いて概要が分かったり、好きな教科や時間割などについて、継続して伝え合ったりできる。

※なお、本単元における「聞くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

3 言語材料

○Do you have [P.E.] on [Monday]? , Yes, I do. / No, I don't., What do you have on [Monday]? I have [math].

○教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, calligraphy, moral education, P.E.), school lunch, cleaning time, recess, study

〔既出〕曜日、教科 (music, arts and crafts, science)

4 単元終末の「話すこと [やり取り]」の言語活動

- ・アメリカから来た ALT に、日本の学校生活や時間割、自分たちのクラスのことを伝えるために、好きな教科や時間割などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりして、やり取りを継続する。

5 「話すこと [やり取り]」に関する単元の評価規準

知識・技能	知識	教科の言い方や Do you have ~ on (Monday)? What do you have on (Monday)? I have ~. の答え方について理解している。
	技能	好きな教科や時間割などについて、Do you have ~ on (Monday)? What do you have on (Monday)? I have ~. などを用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現		ALT に、日本の学校生活や時間割、自分たちのクラスのことを伝えるために、好きな教科や時間割などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりして、やり取りを継続している。
主体的に学習に取り組む態度		ALT に、日本の学校生活や時間割、自分たちのクラスのことを伝えるために、好きな教科や時間割などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりして、やり取りを継続しようとしている。



内容のまとめりごとの評価規準（例）は P17～26 参照

6 単元計画

児童が自分の考えや気持ちを伝えることができるようになるための「話すこと
[やり取り]」の単元指導計画（全6時間）

時	◆目標 / ○主な学習内容及び活動	指導の POINT
1	◆単元の目標を把握し、各自目標をもつ。 ○Small Talk: 好きなスポーツ ○ALT による出身国、地域の小学校の様子や学校生活について聞き、学校生活や教科名の表現に気付く。 ○ALT の「あなた達の学校やクラスのことも教えてください」という問いかけに対し、「学校生活（教科や時間割など）やクラスのこと（人気なもの）について尋ね合い、それを ALT に伝える」という単元の目標を把握する。 ○ALT にクラスの時間割を紹介する中で、教科名の表現を知る。 ○友達と好きな教科について、尋ねたり答えたりしてクラス内での好きな教科を知る。初めは、教師とのやり取りの中で、どのように言ったらよいか表現を確認する。 HRT: I like Japanese. Do you like Japanese? S 1 : No, I don't. HRT: What subject do you like? S 1 : I like 社会. 何て言ったらいいかな・・・ S2・S3: 社会は・・・social studies. ○既習の I like~を使って、ALT に自分の好きな教科を伝える。	毎時間、友達とのやり取りが継続できるよう指導します。 ALT にクラスで人気のものや学校生活を伝えるために、単元を通して、同じような言語活動を繰り返し行います。 音声から表現に気づいたり、映像などから表現の意味を理解したりするようにします。 やり取りの中で教科の言い方や We have~の表現に児童が気付くようにします。 やり取りの中で理由や好みなどを更に詳しく尋ねられるようにしていきます。
2	◆ALT に時間割を伝えたり、友達とクラスで人気のものを尋ね合ったりすることができる。 ○Small Talk: 好きなアイスクリーム ○Let's Watch and Think 1 を見て、外国の学校についてわかったことを伝え合う。 ○ALT に自分のクラスの今日の時間割を伝える。 ○担任が ALT に Do you have/like~? を使って質問をした後クラスの人気なものなど、ALT にさらに伝えたいことについて考える。 ○友達と好きな○○について、尋ねたり答えたりする。 HRT: I like <i>sushi</i>. I like tuna. Do you like <i>sushi</i>? S 1 : No, I don't. HRT: What food do you like? S 1 : I like ramen.	

	HRT: What (kind of) ramen do you like? S 1 : I like miso ramen. ○ALT に、友達と尋ね合った自分たちの人気のものについて伝える。
3 本 時	◆友達と、好きな曜日や教科を尋ね合うことができる。 ○Small Talk: 好きなゆるキャラ ○Let's Sing: Sunday, Monday, Tuesday を歌い、曜日の表現を思い出す。 ○Let's Watch and Think 2 を視聴し、We have ○○.の表現に気づき、外国の時間割や学校生活についてわかったことを伝え合う。 ○ALT に、友達と尋ね合った好きな曜日やその理由などについて伝える。
4	◆友達と、好きな曜日や時間割などを尋ね合うことができる。 ○Small Talk: 好きな給食 ○担任や友達と好きな曜日やその理由などを尋ね合い、 会話を継続することによって、相手のことや自分の ことをもっと知ることの楽しさを味わうようにする。 HRT: I like Wednesday. We have music and calligraphy on Wednesday. Do you like Wednesday? S 1 : No, I don't. HRT: Oh, really? What day do you like? S 1 : I like Thursday. HRT: Thursday? Why? S 1 : We have arts and crafts on Thursday. HRT: Wow, you like arts and crafts. ○ALT に、友達と尋ね合った好きな曜日やその理由などについて伝える。理由を伝えることができると、より詳しく自分やクラスのことを知ってもらえることが実感できるようにする。
5	◆ALT に、どんなことを伝えたいか考えを出し合い、友達と尋ね合うことができる。 ○Small Talk: 今日の給食 ○「学校やクラスのことを知りたい。」と言っていた ALT に、今まで尋ね合ったことなどを思い出し、どんなことをどんな順番で伝えたいか考えを出し合う。 ○好きな教科や時間割、人気のものなどについて、更に友達と尋ね合い、理由をつけて話すことを通して、互いのことやクラスのことについての理解を深める。



やり取りの中で曜日の言い方、haveの使い方について、児童が気付くようにします。

やり取りの中で相手に尋ねたことに対して、相槌やリアクションの表現に児童が気付くようにします。

	S 1 : I like Monday. We have P.E. on Monday. How about you? S 2 : I like Friday. We have English on Friday. I like English very much. S 1 : Sure. S 2 : I like <i>manga</i> very much. I like <i>Doraemon</i>. Do you like <i>manga</i>? S 1 : Yes, I do. I like <i>ONE PIECE</i>. S 2 : Nice. Me, too. ※評価規準に基づいて、行動観察により評価する。記録に残す評価を行う。	今まで学んできたことを総動員して、やり取りをする場面を設けています。
6	◆今まで友達と尋ね合ってきたことを、ALT に伝えることができる。 ○Small Talk: 好きなお菓子 ○前時で、ALT にクラスのことをどのように伝えるか考えたことを想起する。 ○ALT に、クラスのことを伝える。 ○ALT に、クラスのことを伝わったか確認し、ALT がどう感じたか感想を聞く。	ALT に「伝えられた」という達成感を児童に味わわせたいところです。

留意点

※本単元は、「話すこと [やり取り]」に焦点を当てているため、毎時間 Small Talk を実施し、既習の表現を思い起こし、運用できるようにしています。

7 本時案（全6時間中第3時）

準備品：ピクチャーカード（教科）、クラスの時間割表、振り返りシート

時間	児童の活動	指導	・ここがポイント
10分	1 Small Talk ○「好きなゆるキャラ」 教師／ペアでやり取りをする。 	・「クラスの人気を知り、ALTに伝える」という子どもにとっての単元目標につながる話題を選ぶ。	◎本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 <u>ここがポイント</u> ・色々なゆるキャラを子どもとのやり取りから引き出し、話題への興味を高めます。 ・どの子も尋ねたり答えたりして楽しめるように、やり取りの中で、子どもを巻き込み、表現に気づき、自分が言いたいことが言えるようにしていきます。
30分	2 Activity ○Let's Watch and Think 2を見て、外国の時間割や学校生活についてわかったことを伝え合う。 ○Let's Sing: Sunday, Monday, Tuesday ○好きな曜日や教科等について、友達と尋ね合う。	・他の国の学校生活を聞き取る中で、自分達の生活と比べたり、時間割や曜日の言い方に気づいたりできるよう視点を与える。 ・歌を歌い、曜日の言い方を思い出すようにする。 ・担任と児童とのやり取りの中で、表現を引き出していかれるようにする。	<u>ここがポイント</u> ・時間割を言うときは、どのように表現するのか気づかせます。次時で、haveを使う場面設定をします。 <u>ここがポイント</u> ・難しい表現は、単元の中で繰り返し使う場面を設定するために、単元の早い段階で導入していきます。 ・やり取りの中で表現に気づき、定着を図るようにします。
	HRT: Do you know <i>Arukuma</i>? <i>Arukuma</i> is a <i>yuru-kyara</i> from Nagano. I like <i>Arukuma</i>. But there are many <i>yuru-kyara</i> in Japan. <i>Arukuma, Funasshi, Kumamon, Nabisuke</i> . . . (児童から出させていく) Do you like ~? ALT: No, I don't. HRT: Oh, you don't like ~. What <i>yuru-kyara</i> do you like? ALT: I like ○○. It's very cute. HRT: Do you like~, S1 さん? S 1 : No. I like △△. (以下、同様に尋ねていく。児童の様子を見て、児童同士で尋ね合っても良い。)		
	HRT: Hello. I like Monday. We have P.E. on Monday. Do you like Monday? S 1 : No. HRT: Why? S 1 : I like Friday. I have English on Friday. HRT: Oh, you like English. So, you like Friday.	・自分の好みに理由をつけて話せるように促していく。 ・ペアを変え、何回かやり取りをする。	

	○①好きな曜日や教科等について、相手の答えたことに対して、さらに質問ができたか②自分の伝えたいことを伝えられたか振り返る。 ○ALT に、クラスの人気の曜日や時間割などを伝える。	・中間指導の際に、好きな曜日の理由を聞いたりして会話が継続できているペア等を取り上げ、紹介する。 ・言えなかったことについて、どのように表現したら良いか、子どもと一緒に考え、ALT に伝わるのか確認して学んでいかれるようにする。 ・代表の児童何人かに、今まで友達に尋ねてわかった人気の曜日や時間割をALT に伝えさせる。	<u>ここがポイント</u> ・中間指導では、曜日や We~. を使ったり、やり取りを継続させようとしたりしている姿を褒めるようにします。また、会話の中で言えなかったことを児童が自覚する機会になるようにします。 <u>ここがポイント</u> ・曜日や教科の言い方が十分覚えられていない場合は、Let's Sing やピクチャーカードなどで再度扱います。また、やり取りについては、継続することによって友達と互いの理解を深めることを実感させ、意欲が高められるようにします。
5分	3 Reflection ○授業を振り返り次の時間への目標を考える。	・児童が気付いていない良い取り組みを評価する。	

④「書くこと」

1 単元名

What can we do ?

〔WC との対応→WC 1 Unit 5〕

教科書との関連	
東京書籍	⑤U3
開隆堂	⑤L4
三省堂	⑤L4
光村図書	⑤U4
啓林館	⑤U4

2 単元目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や第三者ができることやできないことなど、具体的な情報を聞き取ったり、自分の考えや気持ちを伝え合ったりできる。また、例文を参考に、自分や第三者ができることやできないことなど書き写したりすることができる。

※なお、本単元における「聞くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

3 言語材料

○I can ～. Can you ～? Yes, I can. / No, I can't. [I / You / He / She] can / can't ～.

○動作 (play [the recorder / the piano], ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing, fly, dive, spray, cling, change, shed, catch, climb, sleep, measure, study, learn, think, make, start, stop, cry), Mr., Ms., net, omelet, well,

〔既出〕スポーツ、動作、日課、not

4 単元終末の言語活動

- ・自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、既習の言語材料を用いて、書き溜めた『My Book』の1ページを見せ合いながら、自己紹介をする。

5 「書くこと」に関する単元の評価規準

知識・技能	知識	※活字体の大文字・小文字を書く技能を身に付ける目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。
	技能	
思考・判断・表現		自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や自分の身近な人（第三者）のできることやできないことなどについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。
主体的に学習に取り組む態度		自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や自分の身近な人（第三者）のできることやできないことなどについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書き写したり書いたりしようとしている。

注）書くことの「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」については、本実践事例のように、各校で実施する言語活動によっては、評価することが可能ですが、5年生用の教科書に設定されている言語活動では評価ができないため、主に6年時に評価することになります。



内容のまとめりごとの評価規準（例）はP18～22 参照

6 単元計画

児童が I can ～. などの表現を使って自分について文章を書くことができるようになるための「書くこと」の単元指導計画（全5時間）

時	◆目標 / ○主な学習内容及び活動	指導の POINT
1	◆「～できる」「～できない」を表す表現を聞いて理解できる。 ○教師とやり取りをしながら、既習の‘can’の表現を思い出す。 ○歌を歌ったりチャンツをしたりしながら、‘can’の表現に慣れ親しむ。 ○ポインティングゲーム・キーワードゲームなどの聞くことを中心としたゲームで、表現に慣れ親しむ。 ○すごろく（巻末カードを机に並べて、オリジナルのすごろくを作る）やピクショナリーゲーム（ペア、もしくはグループで絵を描いた人に Can it run fast? などの表現を用いてその絵について尋ね合い、その絵が何なのかを当てるゲーム）で、Can you ～? / Yes, I can. No, I can't. などを使ってやり取りをする活動을しながら語句に慣れ親しむ。	できないことを表現したい児童には I can't ～, but I can ～. と付け足すように促し、否定で終わらせないようにします。
2	◆「自分のできること」を伝え合うことができる。 ○Book Reading で教師と What can you do? / I can ～. などのやり取りを行いながら、「自分のできること」を想起し、応答する。 ○リスニング教材を中心とした聞くことの活動で I can/ can't ～. の表現に慣れ親しむ。 （Let's Listen / Let's Watch and Think） ○I can ～. などの表現を使って、できるだけたくさん「自分のできること」をペアと伝えあってみる。 ○Can you ～? / What can you do? などの表現を使って、クラスの友達とできることを尋ねあう。	自己肯定感を高められる単元なので、各児童ができることをたくさん表現するように促します。 身体的なことを表現させるときは十分に気を付けましょう。インクルーシブ的視点をもって語句の選択をさせます。
3	◆Who am I? クイズで、印象に残った「友達のできること」を書き写すことができる。 ○教師が Who am I? クイズのモデルを示す。 ○「自分のできること」を3つ以上書いたカードを箱に入れ、くじ引きのように引いたカードに書かれた単語を使って、can を用いた文章を口頭で作る。 クラス全体で、ペア・グループで行う。 ○絵辞書や教科書に出てきた語句を見ながら、Who am I? ゲームで印象に残った、「友達のできること」を書いてみる。	カードには、慣れ親しんだ絵や表現を使用し、児童に負担をかけないよう留意します。 活動の前に教師→代表児童で数回モデルを示し、全員が方法を理解できるようにします。

【児童のカード例】

5-2 No 5 Taro

① baseball

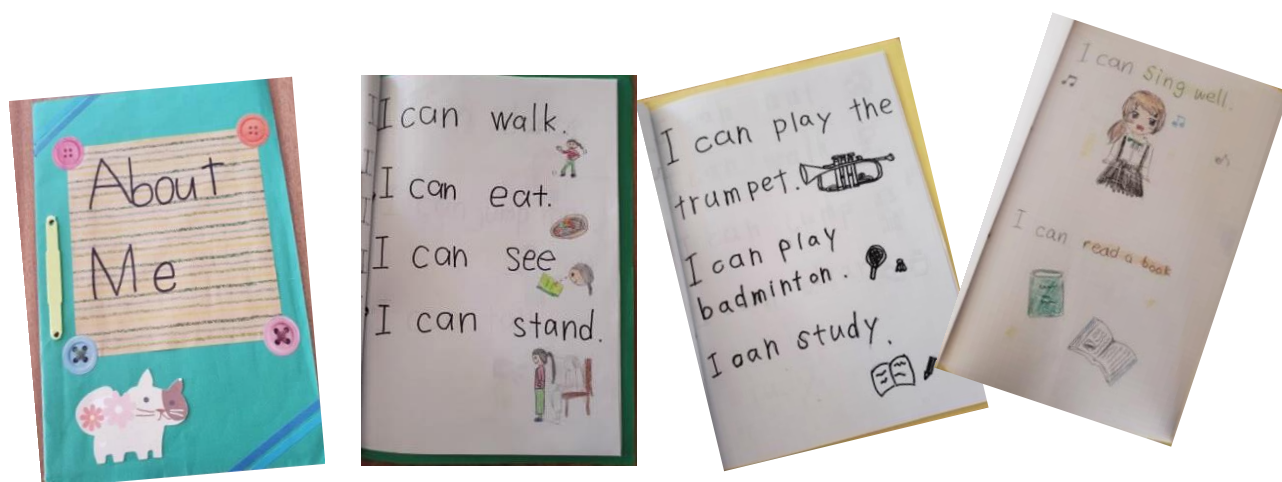
② swim

③ kendama

4	◆My Book※の1ページを仕上げる。
本時	○ My Book にできることを書く ・ 自分のできることを、友達と対話しながら確認する。 ・ 板書でモデル文を示しておく。（文を写すことを基本とする） ・ 絵も付け加えながら I can ～. の表現を使って自分のことについて可能な限りたくさん書く。 ○ 書き終わったら My Book の 1 ページを見せながら自分のことを発表できるように練習する。 （例） I can play the piano. / I can jump high. ●————● ○ 一度自分の考えで行い、他の児童とやり取りし、良い部分は自分の発表に取り入れ、改善していく過程を大切にする。
5	◆My Book を見せ合いながら「自分のできること」について発表することができる。 ○ 自分のできることを、書き上げた My Book の 1 ページを見せながら自分のことを発表する。 ○ 個人練習→ペア練習→グループ練習などを経て、全体の前で発表できるようにする。 ○ お互いのフィードバックを聞き合い、発表をより良いものにするにはどうしたらよいかを考える。

個人練習 →
 ペア練習 →
 グループ練習
 などを経て、
 全体の前で発
 表できるよう
 中間指導をし
 ながら練習を
 進めます。

【My Book※の一例】



7 本時案（全5時間中第4時）

準備品：ピクチャーカード（人物、代名詞、動詞）、ワークシート、振り返りシート

時間	児童の活動	指導	・ここがポイント ◎評価〈方法〉
5分	1 Small Talk ○教師の話の聞いた り、反応したりしな がら、ペアでやり取 りをする。	・ JTE、ALT が「自分ので きること」について語り合 う。 →児童と教師でやり取りを する。 ・ 既習のリアクションワード を児童から引き出す。	<u>ここがポイント</u> ・ 教師が二人で話し ていたのに、いつ の間にか児童を巻 き込んでいるとい う流れにします。
5分	2 Let's Chant (P35) ○ 1 回目はゆっくり バージョンで練習す る。 2 回目は普通バージ ョンに挑戦する。	・ チャンツをしながら、本時 に扱われる文型や語句など をリズムの中でとらえられ るようにする。 ・ 映像の中の文字を見ながら 言えるように促す。	<u>ここがポイント</u> ・ やり取りをしなが ら「書く」活動で使 えそうな表現に 慣れ親しみます。 児童を巻き込んだ 読みにしていくこ とを目指しましょ う。
10分	3 Book Reading ○ “What can we do?” を読み、「自分ので きること」を見つけ る。 ○ 教師とやり取りしな がら、絵本の内容を 理解する。	・ 内容理解がなされているか 確認しながら、読み聞かせ をする。 ・ ストーリーを Q-A で確認 する。	<u>ここがポイント</u>
5分	4 Let's Talk ○ グループでお互いの 「できること」を見つ け合う。 S 1: You can play basketball well. S 2: I think so, too. S 3: Wow, really? Thank you.	・ 協働的に活動を進めていく よう促す。 ・ リアクションワードを使い やり取りするよう促す。	<u>ここがポイント</u> ・ 自分を見つめ直す 機会にもなります。 お互いのでき ることを口頭で 伝え合った上で 書かせる活動 を行います。
15分	5 Let's Write ○ My Book に自分の できることを書く。 ○ My Book を鑑賞し合う。	・ 書きためている My Book に We Can 1 などを使い、 自分ができることをイラス ト入りで書くように促す。 （必要に応じて中間指導を する。） ・ 作品を、お互いが鑑賞でき るよう机の上に置き、自由 に鑑賞させる。	◎例文を参考に、音声 で十分に慣れ親し んだ簡単な語句や 基本的な表現を用 いて書いている。 ＜記述分析＞ <u>ここがポイント</u> ・ 児童の主体性を 大切にし、可能な 限り、児童が書き たい・言いたいこ とを言わせたり 書いたりできるよ う支援します。
5分	6 Reflection ○ 次時の目標を振り返 りシートに書く。	・ 次時へつながるコメントを 取り上げる。	